

理工学基礎実験レポート

| | |
|------|--|
| 実験日 | 1875 年 11 月 19 日 (火 ・ (金)) ((午前) ・ 午後) |
| 実験題目 | D-1「表示系におけるヒューマンファクターズ」 D-1-2 VDT 作業における人間の操作特性に関する実験 |

| | | | | | |
|-------|--------|-----|---|------|----------|
| 学科 | 異世界生活科 | クラス | S | 学籍番号 | 19850325 |
| 報告者氏名 | 菜月 昂 | | | | |

| | | |
|-------|--|--|
| 共同実験者 | | |
| | | |
| | | |
| | | |

| | |
|----------|---|
| レポート提出日 | 2046 年 11 月 25 日 19 時 2 分 |
| レポート再提出日 | 年 月 日 時 分 |
| | |

| | |
|----|--|
| 室温 | |
| 湿度 | |
| 気圧 | |

1. 目的

公開用に本文を削除.

2. 実験 B-1

公開用に本文を削除.


2.1. 実験 B-1-1

公開用に本文を削除.

2.1.1. 実験方法

公開用に本文を削除.

2.1.2. 実験結果及び考察



画像サンプル

図 1: ターゲットのサイズとずれの距離の平均


画像サンプル

図 2: ターゲットのサイズと所要時間の平均

2.2. 実験 B-1-2


公開用に本文を削除.

2.2.1. 実験方法




画像サンプル

図 3: 純色の誘目性尺度値 (背景別)
神作博. “画面構成法による環境内の色彩の誘目性に関する研究”, 日本眼科学会, 1987, p.72.
より引用, 図は新規に作成した[1] .




画像サンプル

図 4: 青色ターゲット

A solid gray rectangular box containing the text "画像サンプル" (Image Sample) in the center.

画像サンプル


図 5: 赤色ターゲット

A solid gray rectangular box containing the text "画像サンプル" (Image Sample) in the center.

画像サンプル

図 6: 黄色ターゲット

2.2.2. 実験結果及び考察



画像サンプル

図 7: ターゲットの色とずれの距離の平均

画像サンプル

図 8: ターゲットの色と所要時間の平均

3. 実験 B-2

公開用に本文を削除.


3.1. 実験 B-2-1

公開用に本文を削除.

3.1.1. 実験方法

公開用に本文を削除.

3.1.2. 実験結果及び考察



画像サンプル

図 9: キー配置と入力の正答率


画像サンプル

図 10: キー配置と入力時間の平均

3.2. 実験 B-2-2

公開用に本文を削除.

3.2.1. 実験方法




画像サンプル

図 11: マウス用ターゲット

画像サンプル

図 12: タッチ用ターゲット

3.2.2. 実験結果及び考察



画像サンプル

図 13: キー配置と入力の手答率

画像サンプル

図 14: キー配置と入力時間の平均

4. 結論

まず B-1 では、サイズ拡大は一貫して時間短縮をもたらす一方で、中心からのずれは増える、という速度と精度のトレードオフが確認できた。

次に、B-1-2 では、視認性が律速段階になり、黄（高輝度・高コントラスト）が最速で安定して生出が出るのに対して、青が最遅・不安定であるという順序が出た。

B-2 では、配置だけではなく慣れの影響も大きいことが確認できた。

参考文献

- [1] 神作博, 「画面構成法による環境内の色彩の誘目性に関する研究」, 日本眼科学会雑誌, p. 72, 1987.